

Nara National Museum

奈良国立博物館

だより

第74号

平成22年7・8・9月



国宝 金剛力士立像(法華堂所在) 阿形 奈良 東大寺

特別展

なら仏像館開幕記念特別展

至宝の仏像

東大寺法華堂金剛力士像特別公開

7月21日(水)～9月26日(日)
なら仏像館(本館)

特別展

特別展

仏像修理100年

7月21日(水)～9月26日(日)
東新館

平常展

中国古代青銅器

7月21日(水)～9月26日(日)
青銅器館(坂本コレクション)

※この期間、青銅器館への入場には
特別展の観覧券が必要です。

金剛力士立像 阿形 (法華堂所在)

脱活乾漆造
奈良 東大寺
国玉

東大寺法華堂の須弥壇上に安置される脱活乾漆造の巨像群のうちの一軀、金剛力士像の阿形である。甲冑を身につけ、左手は肘を張りつつ拳を下方に突き下げ、右手は上方に振り上げる。今は持物の大半を失うが、右手には、対をなす吽形像同様に、長大な金剛杵を握りしめていた。左足を開きつつ腰を右にひねり、顔を左方に向け、開口し、髪を逆立てて烈しく怒号する。向かい合う吽形像がエネルギーを内に秘める「静」のかまえであるのに対し、阿形像はパワーを炸裂させる「動」のかまえと見ることができよう。

金剛力士はすなわち二王(仁王)のことであり、ふつう二王といえは、下半身に裙をまとったが、上半身は裸体で、筋肉を隆起させる姿が思い浮かぶ。このような見慣れた半裸の二王の伝統もわが国には古くからあり、和銅四年(七一二)に完成した法隆寺中門の塑造金剛力士像や、制作年代に諸説あるものの、七世紀末頃かと思われる長谷寺法華説相図中の力士像があげられる。

これに比べ、着甲の姿の本像はその異風が際だつ存在で、日本の金剛力士像のなかでは、法華堂像のほかは、本像を写した可能性のある東大寺西大門勅額中の力士像(鎌倉時代)がある程度である。

しかし大陸に目を向けると、数こそ多くないながら、甲冑を身につけた金剛力士像も散見する。着甲の武装形ということだけでは四天王ないし二天王との分別が困難であるが、金剛杵を手にとるといった点を指標にするなら、西域のキジル石窟壁画や、炳靈寺石窟第一六九窟、あるいは雲岡石窟第九十窟にも認められる。後二者はいずれも北魏時代のものだが、その後の中国における作例を通覧すると、甲冑をまとわないものが増え、主流となつてゆく。

その意味では、すでに半裸像が成立していた日本に、新たに着甲像が導入されたわけであり、中国における展開とは逆の動きであったといわねばならない。その背景にはどのような事情があったのか、にわかには解明しがたいが、あるいは遣唐使の持ち帰った何らかの文物が契機となったのではあるまいか等、想像はふくらむ。

岩田 茂樹(当館学芸部長補佐)

● 公開講座 ●

7月31日(土) 「仏像修理100年よもやま話-修理にかかわって50年-」
小野寺 久幸(財団法人美術院常務理事)

9月11日(土) 「展示概説 仏像修理100年」
鈴木 喜博(当館学芸部 首席研究員)

時間：各回とも 午後1時30分～3時(午後1時開場)
会場：当館 講堂
定員：196名(先着順。午後1時より、講堂入口で入場券を配布します)
料金：無料
※入場の際には、特別展の観覧券もしくはその半券をご提示ください

● サンデートーク ●

第4回 7月25日(日) 「病と仏教-平安貴族の疾病観-」
斎木 涼子(当館学芸部研究員)

第5回 8月22日(日) 「梵鐘銘と私」
野尻 忠(当館学芸部研究員)

第6回 9月19日(日) 「法隆寺金堂、三組の四天王像とその謎」
岩田 茂樹(当館学芸部長補佐)

※各回とも午後2時～3時30分(開場は午後1時30分)。当館講堂にて。
定員196名(先着順)。聴講無料

● その他のイベント ●

奈良国立博物館で「特別展 仏像修理100年」と「なら仏像館開幕記念特別展 至宝の仏像 東大寺法華堂金剛力士像特別公開」を開催中の夏休み期間、博物館周辺ではさまざまなイベントが開催されています。ぜひあわせてお楽しみください。

全国光とあかり祭 7月31日(土)～8月4日(水)
※各日とも午後7時～9時30分
なら燈花会 8月5日(木)～14日(土)
※各日とも午後7時～9時45分
バサラ祭り(奈良バサラ) 8月29日(日)

◆ 奈良国立博物館賛助会

2010年7月1日現在、一般会員(個人)32名、一般会員(団体)16団体、特別会員2団体、特別支援会員5団体のご入会をいただいております。

● 第39回 奈良国立博物館 夏季講座 ●

「仏像修理100年と仏像研究の現在」

開催日：平成22年8月24日(火)～26日(木)
主 催：奈良国立博物館・奈良女子大学
会 場：奈良女子大学 講堂(近鉄奈良駅から徒歩約5分)

8月24日(火) 受付9時30分～/開会10時30分～
① 特別講演「彫刻史研究と仏像の保存修理」
西川 杏太郎(財団法人美術院理事長)
② 「滋賀の仏像の保存修理の思い出」
宮本 忠雄(元滋賀県教育委員会/元滋賀県立琵琶湖文化館長)
③ 「仏像修理の現在」

奥 健夫(文化庁主任文化財調査官)
8月25日(水) 受付9時～/講座開始9時20分～
① 「回想：東大寺南大門の仁王像の修理」
鈴木 喜博(奈良国立博物館学芸部 首席研究員)
② 「清凉寺釈迦如来像をめぐる」
井上 一稔(同志社大学教授)
③ 「仏像——研究と鑑賞のあいだで」
副島 弘道(大正大学教授)
④ 「肖像彫刻研究とその課題」
根立 研介(京都大学大学院教授)

8月26日(木) 受付9時～/講座開始9時20分～
① 「運慶と靈験仏」
瀬谷 貴之(神奈川県立金沢文庫学芸員)
② 「奈良国立博物館保管の仏像に関する二、三の知見」
岩田 茂樹(奈良国立博物館学芸部長補佐)

※26日午後は、奈良国立博物館にて特別展を見学(午後6時まで)。その後、自由解散

◆ 受講料：3,000円

※テキスト代などを含みます。受付決定後に振り込んでいただきます。

◆ 定 員：400名

※応募多数の場合は奈良国立博物館友会の会メンバーを優先し、なお多数の場合は抽選で決定します。

◆ 応募方法：往復はがきによる、郵送に限ります。

※往復はがきに「夏季講座参加希望」と書き、[氏名・住所・郵便番号・電話番号・性別・年齢]を明記して下さい。奈良国立博物館友会の会メンバーの方は、友の会カード番号もお書きください。

※返信用はがきには宛名を記入してください。

※はがき1枚につき申込者1名としてください。

◆ 応募締め切り：7月23日(金) 必着

※受付の可否を7月30日(金)までにご連絡します。

申し込み先：〒630-8213 奈良市登大路町50 奈良国立博物館教育室
問い合わせ先：教育室 電話 0742-22-4464 FAX 0742-22-7221